

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	<p>日常の道徳等の授業を通して、自他ともに「人を大切にする心」を育てている。また、暴力行為が犯罪行為であるという認識を持たせるよう指導を行っている。</p> <p>問題行為が発生した場合には、被害生徒の気持ちに寄り添いながら、加害生徒からの聞き取りも行い、再発防止に向けた取組を行っている。</p>
②いじめの状況等	<p>日常の道徳等の授業を通して、自他ともに「人を大切にする心」を育てている。また、他人をいじめる行為は決して許されるべき行為ではないという認識を持たせるよう指導を行っている。</p> <p>問題行為が発生した場合には、被害生徒の気持ちに寄り添いながら、加害生徒からの聞き取りも行い、再発防止に向けた取組を行っている。</p>
③小・中学校における不登校の状況等	<p>不登校の理由が、病弱や、学校生活に適応しづらい、他人が怖い等多岐にわたっているため、生徒一人ひとりの思いを汲みとり支援を行ったうえで出席日数が増加した生徒もいるが、改善が見られずに各学級担任の負担が大きくなっている現状がある。</p> <p>今後、不登校対策主担を中心とする不登校対策委員会を中心に、具体的方策を検討しながら組織的な運用に取り組んでいく。</p>
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	